

平成28年度学校自己評価システムシート（埼玉県立越谷北高等学校）

目指す学校像	生徒が高い志を胸に、勉学・部活動・学校行事に主体的に取り組み、創立50周年に向けてさらに進路実績を伸ばすとともに、社会で活躍できる骨太で品格あるリーダーを育成する。
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 質の高い授業で、基礎基本を確立させ、一人ひとりの学力向上を図る 高い志を醸成し、卒業後も広い視野を持って活躍できる人材を育成する 規律ある生活態度と人権意識を高め、品格ある北高生を育成する 創立50周年に向けて「努力と実績」の教育活動を広く発信する
------	---

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	9名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	11名

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (2月1日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートでは、授業や進学講習などの学習指導体制に対する生徒の満足度87%、保護者の満足度93%と高い評価を得ているが、さらに思考・判断・表現等の力を高めるための授業改善が必要である。 考査前の学習時間は増加しているが普通の自学自習力を育成するため、時間管理能力を身につけさせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上と授業改善の取組 時間管理能力と自学自習力の育成 理数教育の充実 	<ol style="list-style-type: none"> ①受講、視察、模試分析、教科研修など校外で授業研究を行い、補習・講習を含めた戦略的な教科指導計画を策定する。 ②生徒による主体的な学習活動を取り入れた授業を実践する。 ①教科間の課題の調整、部活動の時間設定の工夫、「北高Diary」の有効活用により時間管理能力を養うことで自学自習力を育成する。 ①課題発見力の育成を目的としたカリキュラムを課題研究などの理数教育に取り入れる。 ②理数科卒業生や理系大学等とのネットワークを構築する。 ③SSHの申請 	<ol style="list-style-type: none"> ①教科自己評価シートにおいて計画、中間報告、達成度評価ができたか。 ②学校評価アンケート生徒満足度90%以上。 ①授業評価アンケートで家庭学習時間が昨年度比較で向上したか、また、北高Diaryを活用したか。 ①課題発見力を授業の目標に設定しているか。 ②新たな理数科行事が策定できたか。 ③SSHに申請したか。指定されたか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①教科授業研究、教科シートによる中間・達成度評価を行い全教職員で情報を共有した。また、アクティブラーニングの実践的取組を行い、課題を共有した。 ②生徒満足度は84.2%で目標に届かなかった。 ①学年主体で課題量のバランスを調整し、平日の平均家庭学習が1・2年生1.6h(昨年1.4h)3年生4.1h(昨年3.8h)で昨年比で増加した。北高Diaryを活用する生徒が増加した。 ①SSH申請のための協議を通して、課題発見力育成の必要性を明らかにした。 ②理数科行事は昨年度並みの実施だが、生徒の興味関心の向上、研究の動機づけができた。 ③目標達成・評価の方策、専門家の助言などの内容を新たに盛り込み申請した。 	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> 卒業学年は、6月段階の第一志望をあきらめさせない指導に取り組み、難関大をはじめ国立大学合格者数で期待以上の成果を上げたが、引き続きあきらめない指導とサポートが必要である。 新入試制度とともに、大学が求める学力と進路意識を組織的に研究し、情報共有を行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 高い志と広い視野の醸成による第一志望の進路実現 難関大学の受験者数、合格者数の増加 	<ol style="list-style-type: none"> ①進路個別面談、ガイダンス、講演会等を効果的に実施する。 ②センター試験後の国立大後期及び私大対策を充実する。 ③県指定事業「骨太リーダー育成」を活用し、リーダーとなる意欲を育てる ①平常講習・長期休業中の講習を引き続き充実させ、参加者を向上させるとともに生徒間の進路実現のチーム力を育てる。 ②2020年度新テストについて、組織的に情報収集と共有、対策を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> ①第一志望校(6月)合格率を40%以上。 ②学校評価アンケートの生徒満足度90%以上。 ③「骨太リーダー事業」に参加し成果を共有したか ①国立型(45%)難関国公立合(10名)国公立合(80名)難関私立合(80件)準難関私立合(250件)以上。 ②新テスト情報の共有 	<ol style="list-style-type: none"> ①第一志望校(11月)は6月比で国公立86%、うち難関83%、早慶上理108%、GMARCH108% ②生徒満足度は88.6%、保護者満足度は90.6%で、適切な指導が行われた。 ③骨太リーダー各事業の報告書を分担して作成し冊子にまとめた。 ①第一志望校(11月)は国公立184名うち難関20名、早慶上理78名、GMARCH81名。平常講習24コマ/週、夏期講習121講座。参加生徒のべ3,233名。 ②高大接続改革への組織的な取組を確認した。 	<p>A</p> <p>A</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣と規範意識は概ね身につけていると言えるが、直面したケースに対し自ら正しく判断できないこともあり、正しい倫理観と北高生としての品格を引き続き自覚させる必要がある。 新事業「骨太リーダー育成」への移行を有効活用し、育てたい生徒像を共通理解した上で教育する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい倫理観と品格の育成 学校行事・部活動・奉仕活動への積極的な参加 リーダーとして活躍できる人材の育成 	<ol style="list-style-type: none"> ①挨拶、整容、自転車等を含む登下校のマナーを自らの判断で改善する力を養うとともに、SNS等情報通信のモラルに関する指導を徹底する。 ①部活動加入を促進し、全校を挙げて文武両道を実践する姿勢を育てる。 ②生徒の主体的な地域貢献活動を行う。 ①県事業「骨太リーダー育成」等を活用しながら県主催行事、学校行事とおして指導力・共感力を育てる。 	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒・保護者の生徒指導満足度90%以上。 ①部活動加入率95%維持。 ②生徒会・部活動の奉仕活動件数。 ①各種骨太事業の参加数(のべ20名以上)及び、学校行事の生徒満足度95%以上。 	<ol style="list-style-type: none"> ①挨拶、整容、交通安全等の学年間で統一した指導を行った。生徒満足度82.1%、保護者満足度92.3%で、適切な指導が行われた。また生徒指導に係る分掌・学年の連携会議を定期的実施し、共通理解を図った。 ①1・2年生部活動加入率(12月)91.1%だったが1年生の加入率98.0%を維持した。 ②生徒会、部活動による地域連携はのべ23件。 ①骨太リーダー事業への生徒派遣は19名/7事業で本年度目標達成予定。教員参加者は19名。また、学校行事の満足度は生徒91.4%、保護者95.6%で、適切に実施できた。 	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> 学校HPを地域・保護者のニーズに応えるものとして進化させてきたが、創立50周年に向けてさらに見やすく理解されやすい内容に発展させる必要がある。 学校公開(土曜、説明会等)は中学生等の参加者も増加し高い評価を受けたが、校内美化など明らかになった課題を解決する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 理解しやすい外部への情報発信 計画的な生徒募集活動の取組 	<ol style="list-style-type: none"> ①学校ホームページを明るくわかりやすい内容に改善し、積極的に更新する。 ②創立50周年事業に向け、PTA、後援会、同窓会との連携を強化する。 ①学校説明会、中学校訪問、進学フェア、ミニ説明会、学習塾等派遣等、生徒募集活動計画を総合的に策定する。 ②課題を共有した上で全職員が生徒募集にあたり、志願者を増加させる。 	<ol style="list-style-type: none"> ①更新数、アクセス数(約2000件/日)の増加。 ②HP・メールの保護者満足度90%以上。 ①土曜授業参加者数とアンケートによる指摘事項、及び学校評価アンケートの土曜授業満足度生徒70%、保護者90%の増加。 ②志願者数の昨年度比較。 	<ol style="list-style-type: none"> ①HPの工夫と更新によりアクセス数2,000件/日以上、説明会参加者の増加が見られた。 ②保護者満足度87.9%で、適切に利用できた。 ①土曜公開授業平均参加数137名。授業への取組は高評価であったが、施設充実は低評価。土曜授業の生徒満足度59.7%、保護者82.3%で、目標に届かなかった。 ②志願者(12月)が普通科1.42倍、理数科1.18倍となり昨年比で志願者数が増加した。 	<p>A</p> <p>B</p>

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成29年2月15日
学校関係者からの意見・要望・評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニング型の授業には予習が欠かせない。生徒が予習時間をどれくらいとっているかが重要であり、分析する必要がある。アクティブラーニングは、復習中心の学習から予習中心に移行させることだと考える。 ・「北高Diary」を、生徒がどれくらい活用しているかを把握することが重要である。 ・大学の学部・学科が多様化して卒業生を追うことが難しくなっているが、財産として活用してもらいたい。 ・今後の国公立大学の推薦入試やAO入試では、体験活動などの主体的な学びが問われるので、通常の勉強以外に大学との連携などを、長期休業を使って積極的にやっていくべきである。 ・2020年の大学入試改革に向けて、どのような人材を育成し、そのためにどのような教育をしていくのか、2030年を見据えた教育実践を期待したい。 ・北高生は、成功体験が多いので何事も前向きに取り組む反面、不登校・部活の中途退部など挫折したときの弱さがある。その時の心理的ケアが重要である。先生が生徒をケアする姿勢だけでなく、生徒同士(特に上級生が下級生を)でケアする態勢も必要である。 ・重点目標2と3の骨太リーダーが重複しているように感じるので、それぞれをもっと明確にした方がよい。 ・土曜授業の趣向を変えて満足度を上げてはどうか。 ・ゴミ拾いなどの活動は、地域で話題になっている。是非、今後も地域との連携をお願いしたい。 ・小・中・高と連携した人格形成、人間育成を協働的に推し進めてほしい。 	

